

今回紹介するのは、海とはまったく無縁のアフリカ内陸部での、ゲームサファリトリップ。

場所は南アフリカ北部にある、

世界的にも有名な野生動物保護区クルーガーナショナルパーク(Kruger National Park)と

その周辺エリアに点在するゲームサファリ。

キリンに蹴られ、ダチョウに威嚇され、サイに突進されそうになり、そしてライオンに甘噛みされながら

サバンナの野生動物たちとの超接近遭遇を堪能してきた。

はたしてその真相は？

## 野生動物との接近遭遇 ミステリートリップ

# South Africa

Photo & Text : Takaji Ochi

スペシャルトリップ番外編

# 南アフリカ

のんびりと移動するキリンの群れは、何度見ても飽きることはなかった。クルーガーナショナルパークで



Information Link  
<http://www.takajiochi.com>

click! 情報HPへジャンプ





リゾート到着と同時に数頭のキリンたちが姿を見せてくれてびっくり。ペズルツリーハウスゲームロッジ

## #01 Pezulu Tree House Game Lodge



室内はシンプル&質素。夜はベッドの下に動物たちの足音を聞いたり、ライオンの遠吠えが聞こえたりする(上)  
全てのロッジがツリーハウススタイルで、童心をくすぐられる(右)



## 南アフリカ初上陸

日本からシンガポールを経由して、向かった先はアフリカ大陸。自分自身にとっても初めての地だ。飛行時間は日本からシンガポールが約7時間、シンガポールから南アフリカのヨハネスブルグ(Johannesbrug)までが約11時間。シンガポールでのトランジット時間約8時間を含めると、計26時間におよぶ移動時間の末、ヨハネスブルグに到着。

空港ではマナティートリップでも一緒だったネイチャーカメラマンのグレッグ&カレン夫妻と合流した。今回、このアフリカトリップを企画する事になったのは、彼の強い勧めがあったためだ。「とにかく面白い！野生動物には沢山会えるし、めちゃくちゃ近い。アトラクションも多いし、絶対飽きる事は無いよ！今まで行った中でも一番お勧めの場所だよ。ゲストを連れて来れば、リゾートを貸し切りできるよ」と数年前から言われてはいたのだが、「まだまだまったく知識も無いのにゲストを集めて行くのはちょっと……」と思いつつ、HPで遠慮がちに「アフリカの野生動物を撮影に行きます」と告知したところ、バハマのリピーターを中心に人数が集まってしまった。「集まってしまった」と書いたのは、正直

ほとんど情報も載せていないのに、ゲストが集まるとは思っていなかったし、現地的確な情報を伝える事もままならなかったからでもある。

今回参加したゲストの人たちは、僕からはほとんど事前情報を伝えられないままに、一緒に現地に旅立ったわけだ。きっと不安だったに違いない。

特にヨハネスブルグと言えば、世界的にも治安の悪い都市として悪名高い。白屋堂々拳銃やナイフを突き付けられ、強盗にあった人が何人もいるという話を書き連ねるコミュニティーサイトなどもある。僕もその辺は情報としては聞き知ってはいたので、グレッグに確認のメールを送った。「大丈夫、空港からバスをチャーターしてクルーガーナショナルパークの近くにあるリゾートまで直行するから、治安の悪い場所は通らないよ」との返事。

その言葉だけを頼りに、現地に向かった。空港で無事、前日にヨハネスブルグ入りしていた彼らと合流。バスに乗り込み、目的地に向けて即座に北上を開始した。移動時間は約5時間。ということで、合計移動時間は30時間以上。「これで面白くなかったら、どうしようかな……」。

## リゾートの敷地内でキリンの群れに遭遇

僕たちが滞在したのは、ペズルツリーハウスゲームロッジ(Pezulu Tree House Game Lodge)。クルーガーナショナルパークへの一番近いゲートからは、約40kmの距離にある。リゾートの名前の通り、宿泊施設が全て木の上にあるツリーハウスという風変わったリゾートだ。ツリーハウスは、このオーナー自身で作り上げたそうだ。決して使い勝手が良いとは言えないし、広々としているわけでもない。しかし、まるで

秘密基地めいた作りが、僕の童心をくすぐった。

到着当日は、とりあえずリゾートの敷地内でのんびりくつろぐという事になった。レセプションにもなっているレストラン&バーから部屋に移動する時に、なんとキリンの群れに遭遇。「え、こんなところで会えるの？」僕は荷物を投げ出して、早速撮影を始めた。慎重に接近するのだが、やはり警戒してなかなか近寄らせてくれない。距離を詰めると、逃げてしまう。

野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**

Information Link <http://www.takajiochi.com> 情報HPへジャンプ





こんなに間近で撮影できる(左) ロング・ジョンは皆のアイドル。(右)



ディナーは、毎晩屋外で



レセプションヤバーも基地みたい



リゾートオーナーのウエスからミルクをもらうロング・ジョン(左上) リゾートに帰る途中で見つけたカメレオン。皆が撮影中、一歩も動きませんでした(上右)

## #01 Pezulu Tree House Game Lodge

リゾートの敷地内でキリンの群れに遭遇

「う～ん、やっぱりなかなか近寄らせてはくれないのかな」と、ふと離れて様子を伺っているキリンの群れから目を離すと、目の前のブッシュになんと子供のキリンが。しかも平然と草を食べている。

「こいつ、よっぽどお腹空かしているのかな？こんなに近くにいるのに、気付かないで食べ続けるよ～」と思いつつも、逃げられないように忍び足で接近を試みた。すると、後ろからグレッグがやってきて「こいつは大丈夫、触れるよ」と言って、平然と接近していった。

「あ～、そんな事したらビックリして逃げちゃうよ～」と思ったのだが、彼がキリンの真下まで近づいても、逃げるどころか、長い首をぐいっともたげて、顔を覗き込み始めた。「このキリン、どうなっちゃってるの？」と聞くと、「こいつはロング・ジョンと言って、もっと小さい頃に母親がライオンに襲われて、ひとりぼっちになったところを人間に育てられたんだよ。だから他のキリンと違って、人間に対して警戒心が無いんだよ」とグレッグ。そう言われて体の側面に手を触れてみた

のだけど、確かにまったく逃げない。それどころか、僕の手を舐め始めたのだ。「か、かわいい……」。

ゲストたちも、次々にカメラを持ってロング・ジョンの撮影を始めた。最初は遠慮がちだったけど、気が付いたら皆がジョンの側面を撫でたり、顔を当てたりしてスキンシップを楽しんでいる。あまりに皆が接近しすぎて、ジョンに足を踏まれたり、背後に立ってしまった、蹴り上げられた人もいたようだ。まあ、太ももの辺りが当たっただけで大事には至らなかったそうだけど、

いくら子供とは言え、犬や猫に比べたら、格段に大きい生き物なんだから、皆少しは用心してよね～。

このリゾートの敷地内には、この他にもインパラなどの草食動物が野放し状態になっていると聞いた。「部屋のドアは必ず閉めておいてね。猿やリスが入ってきちゃうから」。「草食動物だけなの？」と訪ねると、「ヒョウとかもいるよ。だから夜は一人で出歩かないようにね」とあっさりとした返事がかえってきた。「それで、大丈夫なの？」。

野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**

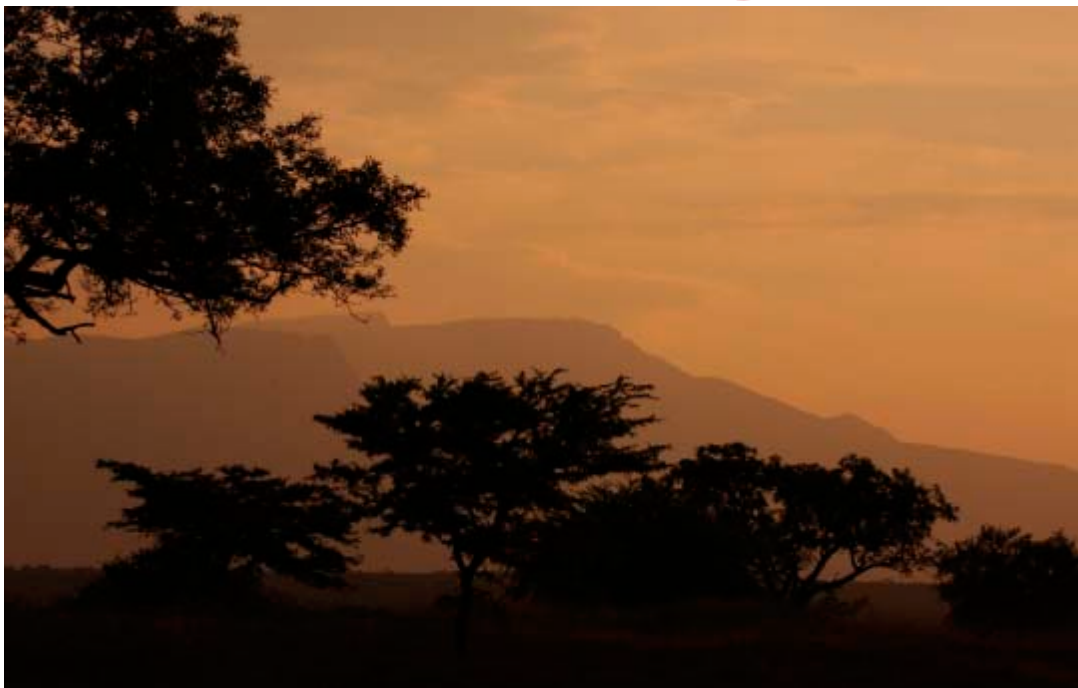
Web-lue 2006. Summer

Information Link <http://www.takajiochi.com> 情報HPへジャンプ





# #02 Game Safari



ゲームドライブで、白サイに接近

車から降りて、鼻息が聞こえるくらいの距離で緊張しながら撮影した白サイ(左上)  
クルーガーと違って、ゲームサファリでは車から度々降りて寛いだり、撮影をしたりした(上右)  
かなたには、プライドマウンテンの勇姿が広がる(下左)  
シマウマもかなり高確率で、しかも近距離で見れる野生動物の1つ(下右)

野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**

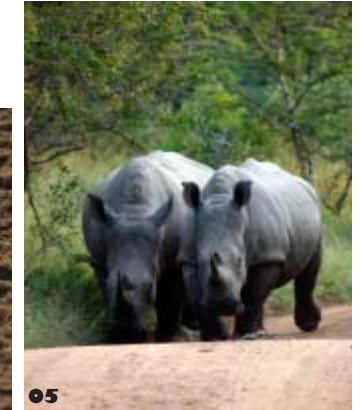
Web-lue 2006. Summer

 **Information Link** <http://www.takajiochi.com>  情報HPへジャンプ





ゲームサファリでは、何が起こるか分からないので、ガイドは常にライフルを携帯している



01:攻撃的なダチョウのオスに威嚇され、ビビるゲスト  
02:車から降りて、気付かれないように、ゆっくりと風下から白サイに近づく  
03:ニヤラのオス(右端)とメス  
04:足跡やフンは、動物たちを探す重要な目印になる。これはライオンの足跡  
05:突然路上に姿を見せた2頭の白サイに緊張

## ゲームドライブで、白サイに接近

翌日朝5時起床。5時半出発で向かった先は、そのリゾートから車でほんの10分程のところにてゲートがあるジラフキャンプ(Giraffe Camp)。クルーガー程では無いにしても、かなり広大なエリアの中に、キリン、インバラ、ダチョウ、シマウマ、サイ、バッファロー、クドウ、ニヤラ、ライオン、ヒョウなどの野生動物たちが野放しになっている。

完全な“野生”と言うにはちょっと語弊があるかもしれないが、クルーガーナショナルパーク内では、指定された場所以外で車を降りる事ができないのだが、こういったゲームサファリ施設では、動物に接近するために、車から降りる事も許されている。「ライオンキング」などの乏しいイメージしか持っていない自分にとっては、アフリカには足の踏み場も無いくらいに動物たちがうようよしていると思っていたのだが、案外

見つからない。まあ、確かに、61平方キロメートル(東京ドーム約1304個分、ちなみに、東京ディズニーランドは東京ドーム17個分)とかなり広大なエリアで、動物を探し出すのはなかなか至難の技だ。

おまけに、今年は例年より雨が多いらしく、木々には葉が茂り、地面も草の緑に覆われている場所が多い。通常ならこのくらいの時期(4月末~5月頭)であれば、もう少し植物が枯れて、視界が効くようになるらしい。「過ごしやすいのは、今の時期、動物の写真だけを撮りたいのであれば9月くらいがもっと草木が枯れて良いかもしれないね」とは、ペズルリゾートのオーナー、ウエス氏のコメント。

今回、ガイドをつとめてくれたのは、黒人のエフラム。案内慎重なガイドをする人のように見えたのだが、ペアになって興奮しているオスのダチョウの機嫌をわ

ざと損ねるかのような運転をして、ゲストがダチョウに威嚇されたり、オス同士でメスを巡って戦っているキリンを見つけると、車から降りて走って接近しようとした(当然キリンは逃げ出したけど)とかなり強引なアプローチをしたりする。こんなアプローチ、きっとクルーガーの中では絶対できないんだろうと思いつつも、ちょっと楽しい。

しかし、ブッシュの中に白サイを見つけた時には、「絶対にバラバラにならないように、走れ!と言ったら車に向かって走るか、高い木によじ登るんだぞ」と何度も何度もしつこいようにゲストに伝えてから、運転席の前に置いてあったライフルを持って車を降りた。その慎重さに、やはりサイは危ないのだなと皆理解したらしく、声を立てずに静かに彼の指示にしたがって車を降りた。

「サイは、目が悪いかわりに、人間の500倍も優れた嗅覚を持っているんだ。犬が人間の100倍だから、どれだけ優れているかがわかるだろう」と彼が説明してくれた。自分たちが風上に回りこまないように慎重に接近する。サイは何かを察知すると、その場で体を回転させたりして状況を伺っていた。何度か遭遇したのだが、あっちが身の危険を感じる距離にまで接近しなければ大丈夫だが、もし向かってきたら、一目散に逃げるしか無いそうだ。今回、「ラン!」と言われる事も無かったし、追われる事も無かったが、グレッグは去年3回もサイに追いかけて木によじ登って難を逃れたそうだ。

しかし、身の危険を感じても、野生動物にこれだけ接近して良いのなら、カメラマンとしては、撮影のしがいがあるというものだった。

野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**





# #03 Kruger National Park



クルーガーナショナルパークで  
BIG5を狙う

親子で草原を駆けるシマウマ(上左)  
数はそんなに多くは見れなかったが、青空に映えるバオバブの木(上右)  
のんびりと草を食むヌーの群れ(下左)  
日没直前に遭遇したメスと子供のライオンたち。車に超接近してきて緊張した(下右)

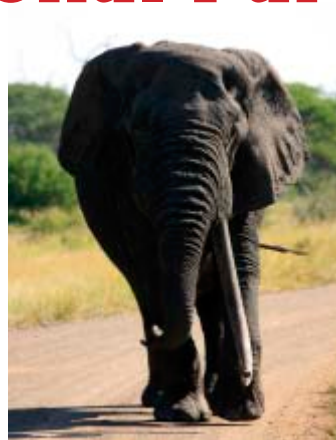
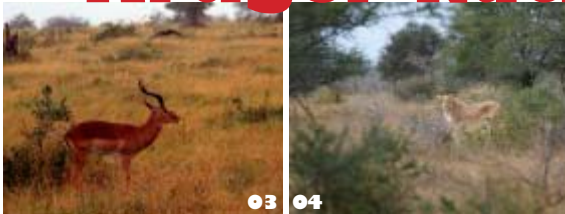
野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**

 **Information Link** <http://www.takajiochi.com>  情報HPへジャンプ





## #03 Kruger National Park



50年以上生きていだろうとガイドが言っていた片牙の老アフリカ像に出会った

- 01: インバラのメスは群れを作って行動する。今回一番多く見かけた動物だ
- 02: 雨に濡れて覇気の無い感じのヌー
- 03: 自分のテリトリーを守るため、地平線を見ながら立ち続けるインバラのオス
- 04: 遠くの草むらの中に潜んでいたライオン
- 05: 横つきの車の荷台に乗って野生動物を探す

# クルーガーナショナルパークでBIG5を狙う

クルーガーは、全長約380km、幅平均約60km、広さ20,000平方キロメートルに及ぶ。南アフリカでも2番目に大きな国立公園。その広さは日本の四国に匹敵するという。クルーガーと聞いてもピンと来ない人もいるだろう。「で、どこなの?」と言われれば後は地図でも見て説明するしかない。南アフリカの北東端、東をモザンビーク、北端をジンバブエ国境に隣接した南北に細長いエリアだ。

今回の滞在では、このクルーガーナショナルパークには、デイトリップで2日間訪れた。こちらに向かう時も、4時30分起床、5時出発と、毎日毎日超が着くほどの健康的な時間に起きて行動を開始していた。それでも、ゲストの皆は夜欠かさずにワインを煽っていたけど。

ナショナルパークのゲートがオープンするのはシーズンによって多少ことなるが、だいたい朝5時30分から6時。クローズするのは夕方17時30分から18時30分の間。僕たちが訪れていた4月、5月は6時にゲートが開き、締まるのは4月が18時で5月が17時30分。この時間までに外に出ないと、ガイドはかなりの罰金を支払わなければいけないのだそうだ。

クルーガー初日、朝から季節外れの雨。しかし、今年は珍しくこういう日が多いそうだ。はっきり言って、ホロでガードされただけの座席には、風雨が吹き込んできて、かなり着込んでいても寒い。「アフリカってこんなに寒いんだ。だったら日本のサファリパークに雪が降っても、動物が平気なものとなんとか納得いくな〜」と思いながら、写真を撮るのもそこそこに小さくなっていった。

ヌーやインバラ、キリン、ハイエナなどに遭遇したが、どれも雨に濡れて、ちょっと覇気の無い感じ。まあ、し

ようがないなと思いながら撮影していた。アフリカでは、ゾウ、サイ、バッファロー、ライオン、ヒョウの5種類の事をBIG5と表現している。クルーガーに来るまでに見れていたのはサイだけ。残りの4種類を絶対見ようと意気込んでいたのだが、やはり野生動物。そうそう簡単には姿を表してはくれない。昼くらいから雨が止み、青空が見えてきたのは良かったが、しばらくはインバラとかキリン、シマウマがたまに姿を見せるくらいで、なかなかBIG5に遭遇する機会が無かった。最初に遭遇したのはまたまた白サイ。一番会いづらいと思っていたのだが、今回は一番最初に出会ってしまった。次にライオン。しかしどちらもかなり道路から離れた距離にいる。撮影できなくはないが、ただ写っているって感じ。「やっぱり車から降りれないじゃ、こんなものかな」と思いながら、観察を続けていた。

今回、持ってきたレンズで最長は400mm。カメラがキヤノンの「1DMark2N」なので、1.3倍だから520mm相当になるのだけど、それでも遠い事が多かった。そんな時、威力を発揮したのが、パナソニックの「DCM-TZ1」だ。光学10倍ズームに加えて、デジタルズームがなんと40倍。画質の問題を気にしない人であれば、はっきり言って、十分遠くの野生動物をかなり大きく撮影できて、ちょっと優越感に浸れる。比較写真を掲載したので、ちょっと見てもらえればと思う。

さて、本題に戻るが、なんだかんだ言いながら、初日でサイ、ライオン、バッファロー、ゾウとヒョウ以外のBIG4を目撃、なんとか写真に納める事ができた。しかし、ゲストの総意としては、クルーガーは1日か2日で十分。できればゲームサファリの方が、近くでゆっくり撮影ができて良いとの事だった。

野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**

Information Link <http://www.takajiochi.com> 情報HPへジャンプ





# #04 Hunting Safari

ウルトラライトで空からの搜索



今回の狙いはゾウの群れ。草むらの先にゾウの群れを発見し、子ゾウの姿をとらえた(左上)  
ハンティングサファリのゲストルームには剥製が沢山置いてある。あまり面白くないとは思えなかった(右上)  
ライフルを持ち、先頭に行くガイドたち(下左)  
腰には、自動小銃も(下中) プッシュをかき分けて、ゾウの群れを探す(下右)

野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**

 **Information Link** <http://www.takajiochi.com>  情報HPヘジャンプ



# ウルトラライトで空からの搜索

最終日、僕たちが行ったのは、ハンティングゲームサファリ(Sandringham)でのゲームウォーク。そこは、イタリアの億万長者(はっきり覚えていないが、プラダだかグッチだかのブランドの会長?)が個人で所有するサファリで、内側でハンティングが可能になっているという。一般には公開されていないため、特別な計らいということになるのだろうか。クラブハウスにも、無数の動物たちの剥製が陳列されていた。ハンティングに慣れていない僕たちからすると、どうなのかかと思ってしまうのだが……。まあ、自分たちも動物の肉を食べているし、特に、今回、リゾートで出されるバッファローのステーキ、ダチョウのケバブ、インパラのパイなどの料理に舌鼓を打っていた身としては何も言える立場には無いような気がした。

それにしても、この広大な敷地内(62平方キロメー

トル:東京ドーム約1326個分)で、短時間で歩いて動物を探すというのはかなり至難の技だ。そのために、まず空からの搜索を行う。使用するのは、ハングライダーにエンジンを付けたようなウルトラライトという乗り物。操縦士とその後ろにもう一人乗せる事ができる。天候が安定していないと飛べないのだが、この日は風も弱く安定した天候だったので、空から動物たちを搜索した。ヌーやキリン、サイ、ゾウの群れなどを空から発見した。低空で飛ぶと、動物たちは慌てて逃げ出していく。本当は見えていないヒョウを見たかったのだが、結局ここでもヒョウを見つける事はできなかった。

ターゲットをゾウの群れに絞ることにした。ゲームサファリ用の車で到着していた皆の元に降り立って、車に乗りかえて、ある程度近くまで移動する。そこからは、車を降り、先頭と最後尾にライフルを持ったガ



01



02



03

01:操縦士の後ろに座って空から動物を探す  
02:夕日に向かって飛ぶウルトラライト  
03:空からゾウの群れを発見

## #04 Hunting Safari



何も無いこんな車で、動物たちに襲われないか心配になるが、その緊張感がたまらない?

イドが着いて、一列になってブッシュの中をターゲットを求めてひたすら歩く。

このエリアには、BIG5が全ているため、いつでもからライオンやサイが飛び出してくるかもわからない。ほんの小さな音も聞き逃さないようにするため、歩いている間、ゲストは小声で会話する事も禁じられた。動物を探すには、足跡、フンなどが目印になる。特にゾウの群れは、草を押し倒し、点々とフンを落としていくので、搜索しやすそうだった。歩く事約30分。近くに木々をなぎ倒す音や、ゾウの鳴き声が聞こえてきた。緊張が走る。ガイドたちはジェスチャーで、それぞれがどちらに向うかの指示を出し合っていた。

僕はカメラを握りしめたまま、彼らの指示に従って息を潜めた。しかし、音はするものの、ブッシュが邪魔でなかなかその姿を見ることができなかった。若いガ

イドのマックスは「ゲームウォークが一番好きだ」と出発前に嬉しそうに話していた。ハンティングをする彼らにとってみれば、この緊張感がたまらないのだろう。僕もいつどうなるかわからないこの緊張感が気に入った。しかし、喉が乾いた。水を持ってこなかった事をちょっと後悔していた。

空から見た時、ゾウの群れにはかなり小さな子ゾウの姿があった。それでかなり神経質になっているのだろうか。結局ほんの一瞬姿を目撃したが、ゆっくりと撮影するには至らなかった。時間が来てしまったので、ブッシュでの搜索を諦め、道に出て車まで戻る事にした。ぼーっと道を歩いていると、僕らの目の前の道をゾウが左から右のブッシュへと足早に走り抜けて行った。ほんの小さな子ゾウの姿もあった。

野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**





# #05 Attraction

動物リハビリテーションや乗馬、  
溪谷巡りなどのアトラクションが楽しめる



まだ成人しきっていない若いチーターを檻から出してもらい触らせてもらった。もっとも絶滅のおそれに瀕している動物だ(左上)  
マホロホロリハビリテーションセンターには、ライオン、ヒョウ、チーター、ワイルドドッグなどの肉食獣が保護されている(上右)  
プライドキャニオンは世界第3番目の大きさを誇る(下左)  
乗馬をしながらサファリを巡るのも面白い(下右)

## 野生動物との接近遭遇ミステリートリップ South Africa

 Information Link <http://www.takajiochi.com>  情報HPへジャンプ



# 動物リハビリテーションや乗馬、 渓谷巡りなどのアトラクションが楽しめる



01:もっとも絶滅の危機に瀕しているチータを保護しているリハビリテーションセンターを訪れる  
02:野鳥が保護されているマホロホロリハビリテーションセンターでは、ヴァウチャーという鳥とのふれ合いも体験できる  
03:チーターリハビリテーションセンターの餌場に群れていたヴァウチャー



シルクファクトリーのレストランでは、ダチョウのケバブなど、美味しいランチを屋外で楽しむことができる

## #05 Attraction

ゲームサファリやクルーガーナショナルパークでのゲームドライブだけでなく、今回は怪我をしたりした野生動物の保護、野生へのリリースなどを目的としたリハビリテーションセンター2箇所にも見学に行った。保護されているライオンやヒョウ、チーターやハイエナ、様々な鳥類と触れあう機会を得た。カバやワニが生息する、世界第3位の規模を誇るブライド渓谷(Blyde Canyon)にも足を伸ばした。その渓谷のある山で乗馬をしながら野生動物を見学したりと、様々なアトラクションがあり、毎日忙しく動き回った。個人的に撮影目的だけであれば、ゲームサファリでのゲームドライブが一番お勧めかもしれない。

また、ハンティングサファリには、小さい頃、母親から見捨てられたのか、一頭でいるところを保護されて、人間に育てられたクンバという4歳になる若い雄ライオンがいる。「サプライズだ」と言って、リゾートのオーナーのウェスが檻から出して、首輪も付けずに野放し状態で皆の前に連れてきた。「触りたければ車から降りて触ってもいいよ。ただし、背中を見せたり、走って逃げたりしたらだめだ。座ってもだめ。カメラのストラップをぶらぶらしていると、戯れたくて前足を出してくるから注意して」と言ってる側から、クンバはゲストの間をうろちょろして、激しくぶつかっていく。本人にしてみれば甘えているのかもしれないが、勢い良く突進

してくると、全身で受け止めないと、倒されてしまいそうになる。中には甘噛みされたりしたゲストもいて、本人たちは大喜びしていた(自分もされたのだけど)、が、今考えると何事も無く済んで良かったと思った。

ミステリートリップとしたのは、自分自身初めて訪れるので、一体何が起こるのか、ほとんどわからなかったからだ。今回のゲストには、その適当さを楽しんでくれる心の余裕があった事を本当に感謝している。来年も同じ時期に同じようなトリップを企画しようと思っている。でも、次回にはちゃんと事前情報はお伝えできるはずだ。

## 野生動物との接近遭遇ミステリートリップ South Africa





# ミステリートリップ、如何でしたか？



生田 智彦さん

5月初旬の4時頃、空が白み始めるまで1時間以上もあるのに目が覚める。まだ辺りが暗い。灯りは点けずにそとバルコニーに出ている。獣がなくなれば静かだ。しばらく星を眺めていると、数十m離れた隣のロッジで押さえ気味のトーンのモーニングコールが聞こえる。そして足音が近付いて来る。「グッモーニン！」こちらから声をかけてみる。もうとっくに起きてますよ～。いつも、その日の出発時間と行き先だけは聞いている。でも具体的なことは曖昧。やや暗いなか、車に乗り込むと、我々だけが知らない(?)濃密なタイムスケジュールに沿って彼方此方に連れ回されるのだ。ミステリートリップと云われる所以である。この情報量の少なさにも拘らず、こんな彼方の地まで、よくぞこれほどの人数が集ったと感心する。かなりの同類に違いない。結局、情報が少ない分だけ期待感が高まる。毎朝、暗いうちから子供みたいにわくわくしている。もちろん、動物がたくさん近くにいる、めちゃめちゃ楽しいところに行くのだ。そして、1日中遊ばまった後に、月を眺めながら心から感じる。本当に来て良かったと。



吉川 かやのさん

「野生のエルザ」から40年、私の夢は、ずっとずっと心の片隅でいつも光り輝いていた。その夢の実現と共に素敵な仲間とのアフリカへの旅、一生に一度では、決して終わらせたくないほど素晴らしいものとなった。生まれて初めてのアフリカの大地は、見渡す限りとてつもなく広くそして暖かく私を迎えてくれた。ウルトラライトで空を飛びながらリゾートのオーナー、ウエスと眺めた日の出は、今まで見た中でも一番美しいと思った。動物たちに逢いたくて一日中走り回ったクルーガーナショナルパーク。そして一番逢いたかったライオンの母子達との遭遇。何もかも夢のようだった。この夢の続きがどうなるのか楽しみながらこれからも生きていきたい。



菊地 典子さん

子供の頃から夢にまで見たアフリカ。こんなに早く実現するなんて思ってもいなかったけど、チャンス到来！ で飛び込みました。地球の歩き方を見ても、グレッグのWEBを見ても、イメージ何処で何をするのかよくわからず、持ちものや衣服すらも不安をかかえて降り立った地で待ち受けていたのは、毎日ビックリな動物との出会い。野生の動物たちの力強さと美しさに圧倒！朝日、夕日のきれいな赤色にただただ感動！キリンに蹴られ、ゾウに驚き、ダチョウに追われ、サイにビビり、馬に振り落とされそうになったのも全部楽しい思い出です。トリップ参加の気のいいみんなには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです、どうもありがとう。

BIG5、最後のヒョウに会うべく、必ずヤリベンジします！



野神 待子さん

初のアフリカの大地!! 空港を降り立ったときにはまだ実感が湧かなかった。車で移動中に車窓の景色が徐々に変わってくる。ようやくアフリカにきた実感が湧いてきた。それにしても空港からの移動時間が長い……。リゾートに着いたらキリンのお出迎え、とてもサプライズだ!! サファリ初日からダチョウに追いかけられたり、ウルトラライトに乗って空を飛んだり、とても楽しい1日のスタートでした。サファリ中はキリンの雄同士争いの、シロサイとにらめっこをしながらの撮影、シマウマの綺麗な体型、バッファローの迫ってくるような迫力、象の「大きな体・大きな耳・小さな目」見入ってしまった撮影を忘れてしまおうになる。最終日の午後はサファリには参加せずに、シャワーとパッキングを早めに済ませて、のんびりとリゾートライフを楽しんだ。なんだか南アフリカ「満腹」と言った感じだが、やはり「Big 5」のうち「ヒョウ」に出会えなかったのが残念……。最後に一言「私の英語力の無さにいつも助けていただき、皆さんありがとうございました。またよろしくお祈りします」



出屋敷 憲子さん

南アフリカの空は、日本の秋の空のよう！空が高く、風が少し冷たくて、気持ちよかったです。360度、周りを見渡しても何も無く、まっすぐな線が1周つながっていて、自分が地球の真ん中にいるような気持ちになりました。毎日早起きをして、日が昇る前にサファリへ出かけ、今日はどんな動物に会えるんだろうと、わくわくドキドキしました。キリンやシマウマ、ダチョウ、サイ、ライオンなど、いろんな動物の親子を見ました。産まれた赤ちゃんたちが、動き出すちょうどいい季節なのかな。親子でいる姿は心が和みます。ずっと見ていたい。キリンや、シマウマはとても美人さんで、ウォーターバックやインバラのオスは、角がとても立派で、男前でした。ダチョウはペアで居るのを何度か見かけました。メスは茶色いのですが、オスは黒と白がとてもきれいで、脚が長くて、スーパーモデルみたいでした。そうそう、キリンが木の高さより高く、木の上から首だけ、ひょこっと出ている姿もすごくかわいかったです。自然に囲まれ、あつという間の1週間でした。あともう1週間くらい滞在したいな！

## #06 Guest's Voice

### 野生動物との接近遭遇ミステリートリップ South Africa

Information Link <http://www.takajiochi.com> 情報HPへジャンプ





山崎 知英子さん

小さい頃、一番お気に入りだった絵本「かたあしちょうのエルフ」は、とても大きくて強くて優しいダチョウのお話で、アフリカの草原でライオンと戦ったり、動物の子供達と遊んだりする様子に憧れていました。アフリカへ行くまでは、その本の事を思い出すことも無かったのですが、草原に佇む一羽のダチョウを見た時、「エルフ」の事を思い出したのです。実際に見てみると、ダチョウは大きくて強そうでジャッカルと闘っても勝てるかも…と思ったし、車を追いかけてくる足の速さには驚きました。また、別の日にガイドさんから「あれがバオバブの木」と言われて思い出したのが「星の王子様」。王子様の故郷の星に生えている悪い木というイメージとは違い、美しい木でした。オトナになってから忘れていた、子供の頃の憧れの世界を思い出させてくれたアフリカトリップでした。



石井 奈緒さん

だいたい旅先では軽い不眠症に陥る傾向にあるのに、今回の旅ではぜんぜん寝不足にならず、お腹超敏感な私を持って来た薬を飲むことなく過ごせたのは初めてかも?! アフリカの空気に清められた感じです。そのおかげで、アフリカの広大な大地を充分堪能することができた。野生動物から襲われる危険性がなければ、あの広大な大地のど真ん中にひとりぽつんと、人気がなくて寂しく感じるくらいまで佇んでみたかった。でも地平線は車の中からも眺められたし、満足満足♪それと夕日ね、言うことありません。野生の動物は思っていたよりやさしく感じた。威嚇してきた動物はいても、それは家族・仲間を守るためだし、見つめ合っちゃうとコミュニケーション取ってるみたいで不思議な感じがした。ダチョウもキリンも話しかけてきてたように思っちゃう。かなり感動して、うるっときたのが1本牙の年老いたアフリカ象。55年? 生きてきた年輪が体のシワに刻まれてるようで、深い深い存在感を感じた。かと思いきや超キュートなカメレオンもいたり日々発見。毎日いろいろ感じ取ってたように思う。人間も動物のように自然に貢献する方法を知ってるはずだよな~と思うけど、どうなんだろう。マザーネイチャーは偉大なり。



榎本 祐子さん

今回の旅で、私は久しぶりに学問的に考えさせられてしまいました。現地に到着して、翌日から野生動物を見に行きました。人間に飼われている動物と違い、何と言うか……彼等には独特の緊張感が漂っていました。が、それと同時に、場所によっては野生動物が人間の存在に慣れ過ぎてしまっている印象を受けました自然保護とは言うものの、それを人間が行っている以上、やはり人間にとって都合の良い自然保護となり、野生動物がそれに適応していかざるを得ないのではありません。自然を人間の側に引き寄せてしまうのではなく、時には人間が自然の側に歩み寄って順応していかなければならないのかもしれないなあ……と、都会では考えもしなかったような事を、雄大な自然を観ながら考えてしまいました。

旅自体は、本当に素晴らしいものでした。滞在したロッジや出掛けて行った場所、そして何よりも出会った人々、どれも私の心に心地良く入り込んでくるものばかりで、滞在中ずっと笑顔で過ごせていたように思います。本当に楽しくて、うれしくて、幸せな気分であつたのは久しぶりだったような気がします。ご一緒した皆さん、素晴らしい思い出を本当にありがとうございます。



熊本 孝博さん

迷彩柄の服や防寒具の準備をしておらず、「街にでかけるような格好やね」と言われながらの旅でしたが、アフリカを満喫することができました。最初から最後までサプライズの連続でした。まず、ツリーハウスに着くとキリンのロングジョーンのお出迎え! キリンの感触を確かめて。サファリでも、サイを間近で見ることに! もうドキドキしながら、夢中で歩いていました。クルーガーナショナルパークは見渡す限り緑一色。スケールの違いにびっくり! その中でゾウやライオンも見ることができて、感激しました。ビッグ5のうち、ヒョウ以外の4つを見ることができ、うれしかった。やはり、親子と一緒に寄り添う姿にとても感動しました。また、ウルトラライドに乗った時のなんとも言えない爽快感! その後のライオンの登場にもびっくりしました。毎日朝早くから晩までタイトなスケジュールでしたが、毎日何が起るかわからない、常にドキドキワクワクした、ほんとに楽しい旅でした。隆治さん、グレッグ、ほんとにありがとうございました。



## お世話になりました

僕たちの企画する南アフリカでのサファリトリップは、都会の喧騒から逃れて、美しい大自然の中で、本当に信じられないくらい素晴らしい体験をすることができます。木の上に作られた、トムソーヤの家のようなツリーハウスに寝泊まりして、ライオンの遠吠えを聞きながら、アフリカンサンセットを眺めたり、ゲームサファリでは、車、船、徒歩、そしてウルトラライトという乗り物で空から、野生動物たちの本当に目の前にまで、接近することができます。

とにかく、リゾートの食事は思いの外美味しいし、びっくりするような体験がいっぱいです。絶対に、一生思い出に残る素敵な経験ができると思いますので、是非僕たちのトリップに参加してみてください。

グレッグ・スイニー

## グレッグ&カレン

Link▶ <http://www.gregorysweeney.com>

## 野生動物との接近遭遇ミステリートリップ South Africa

Web-lue 2006. Summer

Information Link <http://www.takajiochi.com> click! 情報HPへジャンプ





**Surprise!**

ミステリートリップの  
サプライズはケタ外れ!



**Trip Information**

2007年、WEB-LUEではクルーガーナショナルパークとその近隣のプライベートサファリを巡るスペシャルトリップを開催します。定員は各週8名限定。

日本からは、シンガポールを経由して南アフリカの都市ヨハネスブルグに入ります。所要時間は、日本～シンガポール間が約7時間。シンガポール～ヨハネスブルグ間が約11時間。ヨハネスブルグからベズルトツリーハウスゲームロッジまでは車

で約5時間。クルーガーナショナルパークは、ロッジから約40分。詳細はochi@web-lue.comまでお問い合わせ下さい。

**スペシャルトリップ日程**

- ➔2007年4月20日(金)～4月29日(日)の10日間
- ➔2007年4月27日(金)～5月6日(日)の10日間
- ➔2007年5月4日(金)～5月13日(日)の10日間



野生動物との接近遭遇ミステリートリップ  
**South Africa**

**Information Link** <http://www.takajiochi.com> click! 情報HPへジャンプ